

中国新聞「子どもたちへ本の招待状」に掲載された本の紹介
 (こども図書館職員が2020年5月17日～2021年3月28日に中国新聞「子どもたちへ本の招待状」
 で紹介した小学校高学年以上向けの本をまとめました。)



掲載日	掲載図書	紹介文
2020年 5月31日	ラスコーの洞窟 エミリー・アーノルド・マッカーリー 絵と文 青山 南 訳 (小峰書店)	伯爵が隠したという黄金が埋まっているかもしれない！ フランス南部、モンティニャックの町に住む少年ジャックとマルセルは、偶然見つけた地面の深い穴を、仲間と一緒に探検します。彼らの前に現れたのは、壁いっぱいに描かれた巨大な動物の絵でした。第2次世界大戦のさなかに発見された人類の宝、ラスコーの壁画の物語です。
	この湖にボート禁止 ジェフリー・トリーズ 作 多賀 京子 訳 リチャード・ケネディ 画 (福音館書店)	母や妹と一緒に、小さな村に引っ越してきたビルは、さっそく周りの森や湖を探検します。ボートを見つけ、湖に漕ぎ出し、島に上陸し、と冒険を楽しみますが、村の地主アルフレッド卿から、自分の所有地に絶対入るなどと言われてしまいました。何か秘密があると怪しむビルたちはハイキングの伝説を知り、隠された財宝を探し始めます。
2020年 7月5日	ほころの神様 富安 陽子 作 小松 良佳 絵 (偕成社)	小学5年生の勇平たち3人は、空き地に捨てられた「ほころ」を見つけ、自分たちの秘密基地に運び込みました。そのほころの前で口にした言葉が本当に起こったことをきっかけに、ほころに任じている神さまが願いをかなえてくれると信じていきます。3人は次々お願いをしますが、願いごとが一つかなうと、そのたびに悪いことも一つ起きてしまい……。
	レインー雨を抱きしめて アン・M・マーティン 作 西本 かおる 訳 (小峰書店)	ローズは、同音異義語や素数に強いこだわりを持ち、ルールを守ることを大切にしている女の子。ある雨の降る夜にパパが連れて帰ってきた迷い犬にレインと名付けて、毎日一緒に過ごしていました。ところが、巨大ハリケーンが来た日、パパの不注意によって、レインがいなくなってしまう。ローズは作戦を立てて、必死にレインの行方を探します。
2020年 8月16日	せいめいのれきし バージニア・リー・パートン 文・絵 いしい ももこ 訳 (岩波書店)	46億年もの大昔、生まれたばかりの地球は、真っ赤に燃える火の球でした。時間をかけて熱い液状の地が冷えて固まり、生物が誕生します。そこから始まる長い進化の歴史を、舞台の劇の形で分かりやすく伝える科学絵本です。三葉虫や恐竜など、次々と登場する生物の壮大な物語が、丁寧に描き込まれた美しい絵とともに楽しめます。
	海辺の宝物 ヘレン・ブッシュ 著 鳥見 真生 訳 (あすなろ書房)	11歳のメアリーは、学校に行くよりも、海辺で変わり石（化石）を集めるのが好きな女の子。亡くなった父さんの仕事を引き継いで、化石を集めて販売し、家計を助けていましたが、ある日、巨大な動物の骨を見つけ……。約200年前のイギリスで、未知の化石を発見した化石採集者メアリー・アニングの子ども時代を描いています。
2020年 9月20日	おじいちゃんは水のおいがした 今森 光彦 著 (偕成社)	琵琶湖にそそぎこむ川のほとりで、60年以上も漁をしている三五郎さん。大正時代に作られた田舟を操りながら、魚を取って生活しています。川藻を掃除したり、ヨシ原の手入れをしたり、自然への感謝を忘れない三五郎さんの1年間の暮らしを写真で紹介。水と様々な生命の関わりや、自然と共に生きる人間の姿を伝えます。
	リンゴの丘のベッツィー ドロシー・キャンフィールド・フィッシャー 作 多賀 京子 訳 佐竹 美保 絵 (徳間書店)	赤ちゃんの時に両親を失ったベッツィーは、町に住む大おばさんの家で9歳になるまで大切に育てられました。しかし大おばさんが病気になる、親戚の農場に預けられることに。泣き虫の少女が農場での経験を通し、たくましく成長する姿を描きます。約100年前の米国を舞台にした物語で、当時の人々の暮らしもよく分かります。
2020年 10月25日	虫はごちそう! 野中 健一 著 (小峰書店)	イナゴやコオロギ、イモムシなど、世界各地でさまざまな虫が、旬のごちそうや高級食品としておいしく食べられています。昆虫食を研究する著者が、東南アジアのラオスや、アフリカのカラハリ砂漠、岐阜県などを訪れ、虫を食べる人々の暮らしを調査。採集や料理の方法などを、写真やイラストを交えて楽しく紹介しています。
	竜退治の騎士になる方法 岡田 淳 作 (偕成社)	秋の夕暮れ、6年生の康男は幼なじみの優樹と一緒に、学校に忘れ物を取りに行きました。すると、誰もいないはずの教室に、西洋の騎士の格好をした男の人の姿が！ 関西弁で話すその人はジェラルドと名乗り、自分は「竜退治の騎士」だと言います。劇団の役者だと思ってる彼の話を聞くうちに、教室に本物の竜が現れて……！？
2020年 11月29日	崖辺のヤービ 梨木 香歩 著 著者2：小沢 さかえ 画 著者3： 出版社：福音館書店	湖の崖辺に浮かぶボートの上で本を読んでいた「わたし」は、突然ハリネズミのような小さな生き物に会い、驚きます。彼にミルクキャンディーを差し出したことから、交流が始まりました。「わたし」は、ヤービという彼の一族の暮らしぶりや、虫や鳥などのさまざまな生き物との付き合い方、自然への思いを聞き、心を動かされます。
	空とぶベッドと魔法のほうき メアリー・ノートン 作 猪熊 葉子 訳 (岩波書店)	ケアライ、チャールズ、ボールのきょうだいは、夏休みにおばさんの家に預けられました。ある朝3人は、近所に住むブライスさんが、足をくじいているのを見つけます。いつもしつやかな彼女は、実はほうきに乗り練習中の魔法だったのです。秘密を守ると約束し、3人は魔法のベッドで南の島や過去の国へと、冒険の旅に出掛けます。
2021年 1月24日	カレーライスを一から作る 関野吉晴ゼミ 前田 亜紀 著 (ポプラ社)	探検家でもある関野吉晴教授が、武蔵野美術大学で学生と行った「カレーライスを一から作る」活動。学生たちは、野菜やスパイス、お米、肉となる鳥、スプーンに至るまで、必要な素材をすべて自分たちで作っていきます。試行錯誤を重ね、時には意見をぶつかり合わせながら、「命を食べる」ことを学んだ9か月間の記録です。
	チョコレート工場秘密 ロアルド・ダール 著 クエンティン・ブレイク 絵 柳瀬 尚紀 訳 (評論社)	チョコレートが大好きな男の子、チャーリーが暮らす街には、不思議なチョコレート工場がありました。ある日、黄金の切符を引き当てた5人の子どもの、工場に招待するという記事が出ます。貧乏で、1年に1度しかチョコレートを買えないチャーリーですが、幸運にもその券を引き当てます。驚きがいつか愉快な工場見学が始まります。
2021年 2月28日	ぼくとヨシュと水色の空 シーグリット・ツェーフェルト 作 はたさわ ゆうこ 訳 (徳間書店)	生まれつき心臓が弱いヤンと、いつも守ってくれる体の大きいヨシュは幼なじみ。二人はお互いに秘密を打ち明ける親友です。ヤンの心臓の手術が間近に迫ったある日、ヨシュがナイフで人を傷つけた疑いをかけられ、いなくなってしまう。大変な状況でもお互いを思い、信じ合う少年たちの友情、家族への思いが描かれています。
	チボロ 菅野 雪虫 著 (講談社)	神と人が近かったころ、体が小さくて狩りが下手な少年チボロは、祖母と二人でつましく暮らしていました。ある日村を襲った魔物に幼なじみのイレシュが連れ去られてしまいます。彼は体を鍛え弓の修行をし、三年後ミソサザイの神と共に父の残した「魂送りの矢」を携え、イレシュを連れ戻しに北へ向かうことに。アイヌ民族の神話をモチーフにした冒険物語です。